南十字星

2023年度 第10号
令和6年3月9日
クイーンズランド補習授業校
ゴールドコースト校
校長　直塚　裕典
E-mail: jschoolgc@jsgc.org.au

四年間のご協力・ご支援に感謝申し上げます！

保護者の皆様方のご協力・ご支援のおかげで今日、卒業式・修了式を行うことができました。卒業生は、最後の学校行事である「卒業式」でしっかりと卒業証書を受け取り、新たな旅立ちとなりました。皆様方のおかげで、素晴らしい式となりました。ありがとうございました。

また、私事ではありますがこの四年間、保護者の皆様には登下校の送り迎えや行事などで、声をかけてくださり、ありがとうございました。皆様の補習校への熱い思いを知ることができ、とても有難く思いました。来年度は、新しい校長先生のもとで新たな補習校生活が始まると思いますが、これまで以上にご支援・ご協力をお願い致します。皆様方の今後のご活躍をお祈り申し上げます。

卒業式での在校生からの送辞　～在校生代表 山本　茶椰さん～

送　辞　♪　♪　♪

夏の日差しが和らぎ始め、秋の訪れを感じる季節となりました。卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表して心からお祝い申し上げます。

幼稚部の皆さん。初めて過ごした補習校での一年間はどうでしたか？運動会でのダンスはとてもかわいらしく上手に踊れていましたね。小学生になると本格的に勉強が始まります。新しいことを覚えることはとても楽しいですよ。小学校生活も楽しんでください！

小学部六年生の皆さん。6年間を振り返ってみてどうでしたか？毎週宿題を6年間やり続けるのは、本当に大変だったと思います。でも6年間ずっと、日本の小学生と同じ勉強をし続けてきた皆さんには、他のオーストラリアの小学生には負けない力が備わっていると思います。補習校祭りでのクイズはとても楽しく、盛り上がっていましたね。下級生のお手本としてとても良く頑張っていたと思います。補習校で培ってきた力を活かしてこれからも頑張ってください。中学部に進学する皆さんは係活動なども増え、忙しくなっていきますが私たちと一緒に頑張っていきましょう。

中学部三年生の皆さん。先輩方とは行事などで関わることが多く、リーダーとして頑張っている後ろ姿を近くで見てきました。係活動や運動会の応援団などで力強く全校生徒をリードしていく姿は、とてもかっこよかったです。みんなから頼りにされている姿を見て、私もこんな風になりたいなと思いました。現地校と補習校の両立は本当に難しいと感じますが、最後まで頑張って補習校に通い続けている先輩方がいるからこそ、私たちも頑張ってこれました。4月からは私たちが先輩方の後を引き継ぎます。先輩たちから学んだことを活かして、補習校の最上級生として、下級生から憧れの存在になれるように頑張ります。改めて卒業生のみなさん。ご卒業おめでとうございます。皆さんの輝かしい未来を在校生みんなで応援しています。

令和6年3月9日
クイーンズランド補習授業校　ゴールドコースト校　　在校生代表　山本茶椰

卒業式での卒業生からの答辞　～卒業生代表　　鈴木　歩真さん～

答　辞　　♪　♪　♪

オーストラリアでは、夏の暑さがやわらぎ、海風が気持ち良く感じる季節となりました。

日本では、桜の蕾が膨らむころでしょうか。ご来賓の皆様、日本人会、先生方、在校生の皆さん、本日は私たち卒業生のために、このような立派な卒業式を挙行してくださり、ありがとうございます。　「人生は自分を見つける旅じゃない。自分を作る旅だ。」

先日、こんな素敵な言葉に出会いました。日々の努力を忘れず、小さな「できた」を積み重ねていくことで今の自分ができあがっているというメッセージです。

補習校での１０年はこの言葉通り、まさに自分を作る時間になりました。
振り返ってみると、鉛筆を持つことから教わった幼稚部。ひらがなや漢字テスト、呪文のように何度も練習した、かけ算の暗唱。家族に怒られながら、泣きながらもやり遂げた毎週の宿題。コロナ禍では、通常授業が行えずオンライン授業になったこともありました。中学部になると、勉強だけでなく、運動会で、声がかれるまで全力で応援したり、補習校祭りでは、みんなで協力したりして作り上げることの楽しさも学びました。

これらすべてのことが、小さな「できた」の積み重ねであったことが、今この場に立ってよくわかります。しかし、これは一人でできたことではありません。
「なんで土曜日も学校にいくんだろう」「日本語を学ぶ必要なんてないんじゃないか」そんな風に思ったことも何度もありました。

そんな時、一番大きかったのは同じように頑張っている友達の存在です。友達がいるから、続けてこられた補習校でした。授業の時間が少しでも楽しくなるように工夫し、励ましてくださった先生方、この補習校を運営してくださる、日本人会、保護者会の皆様のおかげもあるのだと教えられました。そして何よりも協力してくれた家族にも感謝の気持ちでいっぱいです。周りに支えられて今の自分が作られているのだと思います。そして、補習校での小さな「できた」の積み重ねが、次もやってみよう、できるかもしれないという自信へとつながっています。

私は、昨年、日本で勉強してみたいという気持ちになり、１学期間という短い時間ではありましたが、日本での学校体験ができました。私たちの仲間の中には、日本の高校へチャレンジする子もいます。補習校での経験を胸に、みんな新たな挑戦に向かっていきます。補習校を卒業するのは、寂しい気持ちもありますが、また次の挑戦を続けていきたいです。今日は、卒業証書をいただき、いつもより大きな「できた」という達成感と喜び、そしてすがすがしさを感じています。
壁にぶつかっても、今日の「できた」という気持ちを思い出し、あきらめずに挑戦します。

最後になりましたが、ここにいるすべての人に感謝をして、答辞の言葉とさせていただきます。

令和６年３月９日
クィーンズランド補習授業校ゴールドコースト校
卒業生代表　鈴木歩真

【卒業式の様子より】

卒業生のみなさんが大人になったとき、どんな世界になっているのでしょうか。
きっとどんな世界であろうと、みなさんがこの補習校で学んだことを必ず生かしてくれると思います。それは、みなさんや保護者の皆様方から、このゴールドコースト校を愛するあたたかさを私が教えていただいたからです。
みなさんの補習校卒業を心からお祝いします。そして、ありがとう！

帰任のご挨拶

クイーンズランド補習授業校　校長　直塚　裕典

この３月をもって日本に帰任することになりました。早いもので大好きな補習校とお別れの時がやってきました。2020 年４月に赴任する予定がコロナの流行のために 2020 年 11 月にやっと皆様方のご尽力のおかげで赴任することができました。

それから、コロナ禍の中でその対応に日々追われていたのも今では思い出となっています。皆様方の温かさや、チームワークのよさを肌で感じました。この地で過ごさせていただいた日々が、本当にあっという間だったように思います。

こちらに来て感じたことは、補習校の子ども達には子どもらしさ、素直さがあるということです。保護者の方が普段から子どもと共に過ごしている時間が日本と違い、長いのではないかと感じました。学校への送り迎えを始め、親がいないと何もできない状況であることがいいのではないかと思います。

私は、全校朝会や入学式などの行事で子ども達に多くの出番をつくってきましたが、スピーチする力が素晴らしいと思いました。これはオーストラリアの教育力の成果や日頃からの家庭教育の力だと考えます。私が勤めていた日本の中学校は義務教育です。問題行動や不登校の子どもがいたら、何とかしてやりたいという思いで、いろいろな方法で関わっていました。補習校は最終的に本人が来たくなければ来なくてもいい学校です。できれば、学校をやめないで済むように何とか工夫して、楽しい授業、楽しい学校にできるように考えていました。

このコロナ禍でいろいろと制限がかかる４年間だったので、子ども達には「希望」がもてる世界となるように大きなテーマとしました。最後の年には「創立 30 周年合同運動会」を実施しました。これは「ブリスベンの生徒とゴールドコーストの生徒が一つになり、大きな希望をもって飛び立ってほしい」というのが目的でした。お互いを思いやり、一緒に汗を流し、お互いの校歌を歌う光景はとても素晴らしいと感じました。

「今の生徒たちと未来の生徒をむすぶ」ための大きな行事だったと思います。

　校長としての「希望」のテーマに向かい、子ども達や先生方、そして保護者の皆様方とともに歩んできた四年間の道のりは、私にとって大きな宝物となります。できることなら、子ども達の成長を見ていきたい気持ちですが、それは叶わない現実です。日本に帰っても、心はずっと補習校とつながっていると思います。４年間本当にありがとうございました。そして、お世話になりました。